

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077800110
法人名	社会福祉法人 大川医仁会
事業所名	グループホームあおぎり荘
所在地	福岡県久留米市城島町芦塚804番地1 (電話) (0942) 62-2150

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	21年 1月 20日
評価確定日	21年 2月 20日

【情報提供票より】 (平成21年 1月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	21 人
常勤	18人
非常勤	3人
常勤換算	18.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	8,400 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 1月 5日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯に広い敷地を有し木造平屋のゆったりした落ち着いた雰囲気のある事業所は、併設のデイサービスセンターと共に建っている。自治会に加入し、地域の一人として敬老会、校区民大会、地域清掃活動等に参加し、近隣保育園とは合同の運動会が開催されるほど交流が深まっている。また、当事業所は毎月ボランティアによる音楽療法と回想療法に取り組んでいる。情報の開示にも取り組み、職員等の意見等も積極的に取り入れ、書類も含めて改善の余地があるところは改善している。職員は連携が良く取れ、生き生きとしており、職員の笑顔と、利用者の安心した穏やかな表情から理念に基づいた開かれた事業所であることが伺われる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題については全職員で話し合い、改善シートを作成し、理念に地域密着の視点を盛り込んだり、職員の異動について広報誌で報告し家族の不安感の解消に努める等、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	自己評価は全職員で話し合い、リーダーが統括し作り上げている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議を定期的に開催し、現状や今後の活動計画及び外部評価等について報告し、委員から意見や要望を聴取するように努めている。避難訓練時の風向きについての配慮や、介護についての相談等、多くの意見が出ており、事業所は適切に対応している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
重点項目④	意見箱を設置し、家族等の来訪時に声かけする等、積極的に意見、不満、苦情を聴取するように努めている。第三者相談窓口は利用開始時に説明を行い、玄関にも掲示している。出された意見・要望に対しては適切に対応している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敬老会・校区民大会・地域清掃活動や近隣保育園との合同運動会など、自治会に加入し、地域との交流を密にしている。また、事業所便りを回覧してもらったり、ボランティアの受け入れや専門学校、大学との交流も行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に加え、事業所独自の理念として地域の一員という視点を含んだ地域密着型の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎週1回程度の会議や研修会等で理念の確認を行い、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会・校区民大会・地域清掃活動や近隣保育園との合同運動会等、自治会に加入し地域との交流を密にしている。また、事業所便りを回覧して貰ったり、ボランティアの受け入れや専門学校、大学との交流も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で話し合いリーダーが統括し作り上げている。前回評価の改善課題についても全職員で話し合い、改善シートを作成し、理念に地域密着の視点を盛り込む等、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や今後の活動計画及び外部評価等について報告して、委員から意見や要望を聴取するように努めている。避難訓練時の風向きについての配慮や、介護についての相談等、多くの意見が出ており、事業所は適切に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者と報告・相談等で、日常的に連携を図っている。また、行政に対してグループホーム部会のようなものが出来ないか等の働きかけをして、21年度にはグループホーム部会が設立予定となっている。市町村と連携を図り質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員は外部研修や内部研修を受講し周知徹底を図っており、利用時に家族に制度の説明をしている。テキスト・パンフレット・研修記録等も、いつでも活用できるようにわかり易く整理されている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態等の報告を行い、月1回の事業所便りと写真を発行している。金銭管理についても、毎月家族等に金銭出納帳を明示し領収書を送付しており、確認の署名押印がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族等の来訪時に声かけする等、積極的に意見、不満、苦情を聴取するように努めている。第三者相談窓口は利用開始時に説明を行い、玄関にも掲示している。職員の異動については、異動を少なくしたり、広報紙で報告し、家族の不安感の解消に努めている。また、利用者の入れ替わりをプライバシーに触れない程度に報告する等、家族の意見に適切に対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は異動による利用者の弊害を理解しており、家族等からの要望もあり、希望出勤を取り入れる等、異動や離職を抑える努力をしている。止むを得ない異動では引継ぎの期間を十分に取るようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては公平性を持ち、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。配置・昇進、教育訓練、定年・退職等において、差別なく誰もが安心して働ける職場環境を目指している。勤務時間については、職員の希望を尊重している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は人権教育の重要性を認識し、全職員で人権に関する学習会を行っている。事業所に人権に関するテキスト・パンフレットを整備し、研修記録もある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は日常的に学ぶことを推進している。職員は希望する研修を受講できるような機会を持ち、研修の偏りがないように研修受講記録も整備し、管理者が声を掛ける等している。研修内容については、全職員が共有できるように伝達研修で報告する仕組みがある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者と職員は地区内の8事業所とのバレーボール大会、お互いの事業所見学、相談等の交流を持ち、サービスの向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学や自宅訪問などを行い馴染みの関係を築くように家族等と相談しながら工夫している。止むを得ず即利用の場合は、家族等と密に連絡を取り、利用者の状況を把握し本人が安心して利用できるように努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物をたたんだり、食器拭き等を共に行い、畑仕事を教えて貰ったり花を活けて貰う等、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努め支援している。意思疎通が困難な利用者には家族等から情報を得たり、排便したいときは声のトーンが上がる等、利用者の日々の行動、表情などからどのようにしたいか本人の気持ちを察し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	事業所独自の認知症アセスメントシートを作成し、本人がより良く暮らせるよう、本人・家族・職員の気づき・アイデアを反映させながら、一人ひとりその時点にそった本人本意の具体的な介護計画を作成している。本人・家族了承の署名・押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6カ月に1回、独自に作成したモニタリングシート等を用い、本人・家族の意向・要望を取り入れ現状に即した見直しを行っている。また利用者の状態変化や状況に応じて随時の見直しを行い、家族等へ連絡している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時は週1回は見舞いに行き、本人・家族・医療機関と連携をとり早期退院へ向けて取り組んでいる。本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等には柔軟に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時にかかりつけ医への受診や付き添い等、本人・家族等と話し合っている。本人・家族等の意向を大切に、今までのかかりつけ医や事業所の協力医との関係を築きながら適切な受診が出来るように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りに関する指針を作成し、契約時や折に触れ、事業所が出来る最大限の支援について本人・家族等へ説明を行っている。また、利用者・家族等の意向を大切にしながら、本人・家族等・医師・職員等関係者全員で話し合い、合意を図り、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修等で全職員の意識化を図り、誘導や声かけ・態度など日常的にプライバシー確保に心がけ、ケアを実践している。個人情報の取り扱いについても認識し、管理者は職員の関わり方を点検し意識化を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、朝寝が好きな利用者は朝寝をしてもらったり、縫い物や編み物が好きな利用者には好きな時間に袋や帽子等を作ってもらったり、好きな時間に散歩や買物と一緒に行く等、その日そのときの気持ちを大切に希望にそって支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は一緒に準備や食事、片付けを行っている。食事介助をさり気なくしながら、同じものを同じテーブルで自分たちで収穫した野菜を話題にしながら楽しく食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能で、柚子湯に入れる楽しみもある。入浴チェック表を作成し、拒否時には原因の把握に努め、臨機応変に一人ひとりのタイミングや時間、声かけの職員を変える等で入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が出来る事を把握し、調理・食器拭き・洗濯物たたみ・畑仕事・花活け・習字・カラオケなどを共にし、役割や気晴らしが出来る支援をしている。利用者から生活の智恵を教わり、感謝の気持ちを伝えている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に配慮し、概ね毎日周辺を散歩したり買い物に出かけている。月3回くらい外食をしたり、30分程度のドライブに月1回は行き、桜やコスモスなど季節の花見、温泉や足湯へ行くなど戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向、外出されそうな時間を把握しており、その時間に趣味を勧めたり精神の安定を図る等をし、外出される時には見守りながら一緒に歩いている。近隣へは挨拶を交わし、区長、民生委員を通じて、声かけなど協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。消防署の協力を得て、年2回の避難訓練と母体法人と夜間想定避難訓練を年2回実施し、地域の参加を得ている。また、消防署の救急救命研修を全職員受けている。非常用食糧・飲料水・備品を整備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は利用者の嗜好を考慮し、職員が作成している。年3回程度栄養士から栄養バランス・カロリーなど専門的アドバイスやチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆとりある共用空間にはテーブル・ソファなどを配置し、和室のコタツでは利用者の会話があり家庭的な雰囲気がある。また、季節の花や利用者の作品が飾られ、和みがある。キッチンの近くのテーブルは利用者と一緒に調理台にもなっている。音量・光も適切で、居心地良く過ごせる工夫がされている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのベッド・テレビ・椅子・カレンダー・時計・家族写真・ぬいぐるみ・植木鉢などが持ち込まれ、個性を尊重した、その人らしい居室となっている。		

※ は、重点項目。